夢と志【学校通信】

平成 25 年 6 月 4 日
第 50 号

西中の風

伊丹市立西中学校長
豊田　實

～『信頼と笑顔』毎日1,500の思いやりあふれる学校生活 ～

旅行・宿泊体験学習に想うこと（雑感）

5 月 17 日、旅をするという高揚感で満ちた生徒たちは九州へのフライトで大阪空港を離陸、客室内では生徒たちの控えめな歓声が上がりました。左に旋回し機体が傾くとすぐに目に入ってきたのは昆陽池でした。初日の宿である稲佐山のホテルでは、眼下の長崎港から汽笛が聞こえてきます。日が沈むと市街地の夜景が見事に広がり生徒たちは旅情気分を満喫できたことでしょう。我が国で初めに外国に門戸を開いた長崎の街は異国情緒が感じられました。街をグループ散策し、長崎の人たちのおだやかさも感じたのではないでしょうか。

５時間ほどの間に生徒たちは、グループで食事をして事前に調べた場所を観光しながら、家族を想い土産物を購入していたようです。休む間はなく長い道のりを歩いたことでしょう。慎重になって、どうしようかと迷って持参のお金を使いきれなかった生徒もいたのではないでしょうか。自分で納得してお金を使うことも体験学習と言えましょう。

5月15日稲佐山のホテルから（長崎市街地の眺望）

長崎名物「卓袱料理（しっぽく）」

大浦天主堂付近

民泊体験では生徒たちの純粋な心を目の当たりにしました。現地の方とは一泊二日の出会いであるけれど一様に満足した表情でお別れの場に各民泊家庭（40 軒）から戻ってきました。お別れ式では、次の要旨でお礼のご挨拶をしました。

「南島原でのお父さん、お母さんになっていただき生徒たちは貴重な体験ができたようです。深く感謝申し上げます。昨日、到着の後に野菜や果物の収穫をしたり、漁に出て釣りをして魚をさばいたりして共に作業をした後に各ご家庭に入り食事をしながら心温まる会話を交わした団欒は、生徒たちにとって再発見だったことでしょう」

旅行解散式では、一人一人にとっての旅の価値が大きくなることについてお話ししました。しっかりとした安全があってのことですが、街の歴史や文化（人の気質、話し言葉、食事など）を見聞することは、現地の人との出会いやふれあいに恵まれることが大切なことでしたねと伝えると、生徒たちはなるほどという表情で応えてくれました。

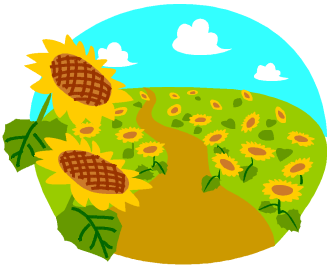
民泊した家族とのお別れのごあいさつ

平和祈念セレモニー（平和公園）

中華街グループ散策

南島原民泊先家族（４０軒）の歓迎

皿うどん

お世話になった家族とのお別れ

搭乗機